

陳情第4号 排泄予測支援機器「DFree」に関する陳情について

1 陳情の趣旨

排泄予測支援機器「DFree」を、障害者総合支援法に基づく千葉市の日常生活用具給付等事業の対象とすることを要望する。

2 排泄予測支援機器「DFree」

(1) 概要

超音波センサーを使用して膀胱内の尿のたまり具合をリアルタイムで計測し、排尿（排便未対応）のタイミングを事前に通知するウェアラブルデバイス（体に装着して使用するタイプの端末）。使用方法は以下①から⑤のとおり。

- ①下腹部の膀胱上部に装着用シート（3～5回目安に交換）とDFree本体を貼る
- ②膀胱内の尿の溜まり具合を超音波センサーで測定
- ③膀胱内の尿の溜まり具合を10段階の数値で表示
- ④設定した数値等を超えると通知音とともに通知が届く
- ⑤通知を目安にトイレや介助を行う



画像1



画像2

(2) 製造企業

DFree 株式会社（東京都港区赤坂2丁目10番9号 ラウンドクロス赤坂9階
代表取締役 中西 敦士）

(3) 価格等（税込）

- ・DFree 本体と専用お知らせ機器（7インチ）セット（99,000円）※Bluetoothで接続
- ・DFree 装着用シート12枚約2か月分（1,980円）※消耗品
- ・超音波ジェル1本約2か月分（550円）※消耗品

(4) 販売実績

障害者への販売実績は千葉県内での販売実績は0。全国で40～60台程度。児童が多い。2022年4月から介護保険制度の特定福祉用具の対象となっている。

3 日常生活用具事業とは

障害者総合支援法に基づき、厚生労働大臣が定める日常生活上の便宜を図るための用具を給付する。本製品の類似用具として「排泄管理支援用具」がある。

【排泄管理支援用具】

「ストーマ装具その他の障害者等の排泄管理を支援する用具及び衛生用品のうち、障害者等が容易に使用することができるものであって、実用性のあるもの」と国が規定。具体的な種目は市町村が定めることとされ、本市は以下の種目を設定している。

- ・ストーマ装具(付属品を含む) ・紙おむつ等(紙おむつ、洗腸用具、サラシ、ガーゼ、おしりふき等衛生用品) ・収尿器

4 「DFree」に係る本市及び他市の状況

現時点で、本陳情以外に問い合わせ等はない。

また、首都圏政令市及び県内中核市で対象としている都市はない。東京都港区が令和6年度から対象品目としたが、7月末日時点で申請及び支給実績なし。

5 本市の考え方

本機器には、自己導尿を行っている方が適切なタイミングで導尿できることによる身体への負担軽減や、排尿のコントロールが難しい方のおむつ替えのタイミングを、ある程度把握することによる介助者の負担軽減など、一定の効果があるものと想定される。

しかしながら、他自治体の導入事例が乏しく、当事者の使用事例も極めて少ない状況であることから、現時点で、本市として導入効果を判断できる段階にないとする。

このことから、「DFree」については、現時点では他市の動向や当事者の意見を注視し、その効果を研究することで、数ある種目追加の要望の中での優先度を検討してまいりたい。